

■ 発電所緑地の管理

当社の火力発電所では、周辺地域の生活環境との調和を保つため、200万㎡を超える緑地と、この緑地において合計約43万本の樹木を、工場立地法に基づき適切に管理しています。

樹種の選定にあたっては、周辺植生や環境条件を考慮して、できるだけ多様で既存の植生に近い緑化を行っています。

豊前発電所では、敷地の約37%に、ヤマモモやホルトノキ、マテバシイなど26種類の樹木等により約13万5千本の植栽を行っており、多くの野鳥の飛来が観察できるほどの恵まれた環境を形成しています(これらの取り組みにより、1995年度に、電力会社として初めて緑化推進運動功労者内閣総理大臣賞を受賞しています)。

川内発電所では、近隣海岸の保安林が松くい虫被害により減少していることを踏まえ、潮風に強いクロマツを中心に緑化するとともに、発電所周辺においても、「九州ふるさとの森づくり」の一環として、防砂林(抵抗性マツ)植樹活動のボランティアに毎年参加しています。



発電所構内緑地の様子(豊前発電所)



防砂林植樹ボランティアの様子(川内発電所)

■ 絶滅が危惧される稀少植物の保護及び特定外来種の防除に関する研究

地球上の生物は、判っているだけで約175万種、未知の生物も含めると3,000万種とも推測されています。そのうち毎年4万種が絶滅しているとも言われており、絶滅の脅威にさらされた野生生物の種の保存は、地球レベルで緊急に取り組むべき重要な課題となっています。このため、九州で絶滅が危惧される身近な植物について、保護を目的とした研究を行いました。

【「女子畑いこいの森」におけるタコノアシの保全】

タコノアシは、湿地や沼など湿った場所に生育する植物で、環境省版レッドリストにも掲載されている準絶滅危惧種です。当社女子畑発電所ダム周辺にある「女子畑いこいの森」(大分県日田市)にも自生していますが、近年イノシシなどの被害により生息数が減少していました。このため、保護柵の設置など、生息地を保護しながら、増殖に向けた研究を行ってきました。研究開始前には7本だったタコノアシは保護柵内121本、保護柵外44本(2012年7月現在)となり、今後の更なる自生拡大が期待されます。



保護柵外のタコノアシの花(2012年8月)



熟したタコノアシの花(2012年10月末)

【社有林におけるカンランの植栽】

九州の身近な植物で絶滅が危惧されるカンランを社有林に植栽して栽培試験を行いました。2010年から3年連続で開花しています。



自然林(社有林)の中で開花したカンラン

【アレチウリの防除方法検討】

樹木への日射を遮り、枯らしてしまうアレチウリ(特定外来植物)の防除方法を検討し、「樹木保護」や「景観保護」の観点から、種が熟成する前にアレチウリを手で引き抜く方法が効果的であることを確認しました。



アレチウリ防除前(2009年7月)



アレチウリ防除中(2012年7月)

用語集を
ご覧ください

- ステークホルダー
- 特定外来種
- 環境省版レッドリスト
- 準絶滅危惧種